HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	母親による乳幼児の顔表情からの感情読み取りメカニズムの解明［論文内容及び審査の要旨］
Author(s)	松田, 久美
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(文学)
Dissertation Number	甲第12520号
Issue Date	2017-03-23
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/65756
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	doctoral thesis
File Information	Kumi_Matsuda_review.pdf, 審査の要旨

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（文学）　　氏名：　松田 久美

主査　教　授　安達 真由美
審査委員　副査　教　授　仲　眞紀子
副査　准教授　瀧本 彩加

母親による乳幼児の顔表情からの感情読み取りメカニズムの解明

当該研究領域における，本論文の研究成果は以下の通りである。第一に，これまで参加者間デザインで行われてきた，感情読み取り特性と育児に関わる６種類の個人特性との関連性の検討を，同一標本による参加者内デザインで行うことにより，母親による乳幼児（toddler）の顔表情からの感情読み取りメカニズムが解明された点が挙げられる。すなわち，「母親の感情読み取り特性規定構造モデル」を示すことにより，「明瞭な顔表情を読み取る傾向」と「曖昧な顔表情をどう読み取るか」を規定する個人特性が，それぞれ明らかになったということである。そして，そのメカニズムを解明する中で，母親の個人特性のうち，特に「内的作業モデル」の果たす役割の重要性が明らかになったことが，第二の成果として挙げられる。内的作業モデル（IWM）とは，発達初期の愛着体験が個人に内在化されたものであり，パーソナリティを含む様々な個人特性に影響を与えるものとして，これまでは「IWM 仮説」のように理論的にのみ語られることの多かった概念である。本論文では，乳幼児を持つ母親の６種類の個人特性間の関連性を検討する中で，母親の持つ内的作業モデルがそれ以外の５種類の個人特性すべてと関連していること，また，乳幼児の曖昧な顔表情の感情読み取りの個人差を規定する要因の一つであることが明らかになった。これは，「IWM 仮説」として語られる内的作業モデルの本質を実証的に示す知見である。さらに，これらの成果をもたらすための必要条件であった「乳幼児（toddler）の顔表情を用いた感情認知検査」の開発・改訂と，育児に携わる親を特に意識した「自己統制機能尺度」の作成を行い，それらの妥当性を証明したことも，本論文の大きな成果と言える。特に，虐待リスクの高い母親が曖昧な顔表情を快感情として読み取りやすいという先行研究の知見を統合すると，本論文で開発・改訂された感情

認知検査の中の「曖昧な刺激」に対する読み取り傾向から虐待傾向を予測することも可能となるかもしれない。

以上述べてきたように，本論文の成果は当該研究領域において，また，応用領域において重要な貢献をなすものであると考えられる。特に，乳幼児の顔表情から感情を読み取らせるという，一見虐待傾向とは関連なさそうな認知課題を約 15 分間行わせることで，今後ますます増加が予想される乳幼児に対する虐待リスクのスクリーニングが可能になるかもしれないという点は，応用分野への将来的な貢献として期待できる成果と言える。もちろん，この感情認知検査が虐待傾向のスクリーニングとして実際に機能するかどうかには，さらなる検証が必要であり，本論文の総合考察においてもそのように論じられている。一方，審査では日常の育児場面において不可欠である文脈についての検討がなされていないという点が指摘された。なぜなら，実際の育児場面において養育者が手がかりとする非言語シグナルは「顔表情」という切り取られた情報ではなく，その表情に至るまでの文脈も，その時の顔表情をどう解釈するかに大きな影響を与えているからである。しかし，口頭試問におけるやりとりの中で，申請者がこの点を本研究の限界と自覚し，今後の課題としての具体案も考えていることがわかった。

以上の審査結果に基づき，本審査委員会は全員一致で，松田久美氏に博士（文学）の学位を授与することが妥当であるとの結論に達した。